

VI. (2) 令和元年度

大阪府立能勢高等学校 SGH 運営指導委員会

令和元年度 構成委員 敬称略

委員名前	所属等
伊井 直比呂	大阪府立大学 教授
大石 なつ美	一般財団法人千里文化財団 理事兼事務局長
片寄 俊秀	NPO 法人 みつや交流亭・亭主 (代表理事)
平岡 光生	能勢町商工会 顧問
平田 篤州	一般社団法人 檸檬新報舎 代表理事
森本 克己	大阪府教育センター 高等学校教育推進室 主任指導主事
瀧上 健一	大阪府教育センター 高等学校教育推進室 指導主事

第1回 運営指導委員会

- 1 日 時 令和元年8月31日(土) 13:00~15:00 運営指導委員会
- 2 場 所 大阪府立能勢高等学校 校長室 (会議)
- 3 内 容
 1. 開会
 2. 挨拶並びに委員紹介
 3. 事業説明
 4. 生徒によるプレゼンテーション・活動内容紹介
 5. 協議 (現在までの活動について、SGH 継承事業について、その他)
 6. 連絡・その他
 7. 閉会
- 4 出席者 大石なつ美、片寄俊秀、平岡光生、平田篤州、森本克己

運営指導委員からの提言 (要旨)

- ・観光甲子園の時に、能勢の観光資源に能勢高校がなりえると構想を練った。外部から客が来て、高校生と交流して、能勢高校を町のサロンのようなものにできないか。高校そのもののあり方を検討する。一般に開かれた学校にしたい。
 - ・グローバルタイムズ、ニュースレターを卒業生にも配付して、卒業生もともに取り組む。
 - ・能勢町が能勢高校の取組みに乗ってきたので、良い方向になってきた。能勢高校を能勢町の観光資源にという考え方を能勢町も分かってきたのではないか。
 - ・観光は、外から光を見に来る人もあるので、これからは光を発する必要がある。
 - ・ドイツについては町からいろいろ情報が入ってきていたが、うまくいくのか心配していた。良い方向に進んで良かった。
 - ・山で生徒と一緒に関西テレビの取材を受けたが、山の木の活用については、遅きに失する。現状では、能勢町全体として里山保全是難しい。「忘れ去られた状態で放置されているがどうすればいいのか」と高校生から鋭い質問があったが、現状ではそのまま放置するしかない。
 - ・SGH 終了後を考えると、SGH の取組みで様々な発見、気づきがある中で、1、2年生が今後どうするかを考えながら実施しているのは素晴らしい。
- <協議>
- ・「経済発展と自然破壊」のテーマは今後も続けるのか。府から継承事業の財政措置はあるのか。
 - ・ヨーロッパはミュージアム、観劇、音楽が身近にある。ドイツに行ってヨーロッパ文化をしっかりと感じてきて欲しい。また、日本がどのように見られているかを見てきて欲しい。
 - ・継承事業として、希望する生徒が海外を体験する機会を与えて欲しい。この方向性を検討してほしい。

- ・継承事業において、マレーシアの環境課題研究の継続は難しいだろう。
- ・他校と遠隔ネットシステムを使い、海外調査について報告しあえば、様々な交流ができるのではないかな。
- ・ドイツとの連携は面白い取組みであり、町としてメリットがある。本校とのつながりはいかなるメリットがあるのかな。
- ・ヨーロッパからの視点で日本を見るのは興味深い。
- ・ドイツ訪問については、「何のために、何を見て、何をしてくるか」、そして、今後の町のために「何ができるか」を整理しておくとうい。
- ・グローバル人材の育成と地域活性化のどこに軸足を置くか。町行政との関係性ができてきた。
- ・文科省のSGH継承事業であるWWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業や地域との協働による高校改革推進事業にも力を入れていきたい。

第2回 運営指導委員会

- 1 日 時 令和2年2月15日（土） 14:00～15:00 （SGH研究発表会後）
- 2 場 所 能勢町教育委員会 会議室
- 3 内 容
 1. 学校長あいさつ
 2. 令和元年度事業成果と課題
 3. 委員からの評価と課題改善に向けての意見
 4. SGH事業5年間の総括
 5. SGH継承事業概要説明
 6. 委員からの講評と意見
 7. その他・事務連絡
- 4 出席者 大石なつ美、片寄俊秀、平岡光生、平田篤州、森本克己

運営指導委員からの提言（要旨）

【今年度の成果と課題】

- ・様々な分野からの講師招へいは良い選択である。
- ・この取組みを通して、生徒は様々な刺激を与えられ、個々に伸長している。数値で表すのは難しいが、生徒のアンケートからは学力が伸びているのを実感しているようだ。
- ・これだけの取組みを展開しているのは素晴らしいが、継承事業としてどんどん内容が膨らむと、同じようには進められない。どこかで線引きが必要ではないかな。
- ・5年間を終え、次の継承事業では、グローバルな視点、地域の拠点作り、人材育成が目的となるだろう。
- ・地域に残る人材、世界に出て活躍する人材の育成が必要である。
- ・SGH継承事業への申請はどうなるか。全国的に考えると連続は厳しいかもしれない。別の方策も考えないといけな。
- ・令和4年の新学習指導要領に沿って、どのような学び、どのような資質、能力を身に付けさせたいかな。
- ・継承事業ではさらにギアチェンジをして加速してほしい。
- ・(研究発表会での) 英語発表後に行った質疑応答での即興的な英語のやり取りが大変良かった。他の発表も質疑応答の時間があり、様々な角度から質問が出て良かった。このように外部の方が参加しやすい状況はとても良い。
- ・今後の新電力会社スタートや、ドイツ、福島県、福岡みやま市の高校生の招へい、日本・ドイツ高校生環境サミット開催など、能勢町と連携して取り組んでほしい。

【今年度の改善点】

運営指導委員会からの提言を受けて、今年度より工夫を凝らし、以下のように改善した。

- ・遠隔ネットシステム「スムーズスペース」を利用し、大阪府立豊中高等学校、宮崎県立飯野高等学校、島根県立隠岐島前高等学校と、課題研究発表をもとにし、SSHや地方創生など様々

なテーマで議論した。

- 能勢町の里山保全活動を継続的に行い、緑化推進機構との事業に参加した。
- SGH 指定終了後に計画している継承事業の実現に向け、能勢町行政、住民と協働して、講座の共催、ドイツへの視察研修などが実現した。
- 外部講師による講座の開催を学校 SGH ホームページやニュースレターなどで事前告知し、地域住民の参加を呼び掛けた。
- 過去の生徒発表や外部講師の映像記録を講座に活用した。
- 能勢町小中学校で発表し、SGH 課題研究活動について、教職員、小中学生に興味を持たせた。
- 大阪府立豊中高等学校の SGH 発表会に参加した。
- 英語力向上の取組みとして、今年も英語ディベートを行った。

VI. (3) 平成 31 年度 能勢高等学校教育課程表

学校整理番号	1002
--------	------

平成 31 年度 大阪府立 能勢 高等学校
 全日制の課程 総合学科 教育課程実施計画

1 総表 (教科・科目等履修単位数)

教科	科目	入学年度	平成29年度				備考
		学級数	2				
		年	I年次	II年次	III年次	計	
学校必修科目	国語	国語総合	4				「NS国語」を含む
		現代文B		2		8	
		(学)実践国語B			2		
	地理歴史	世界史A			2		4
		日本史A	2				
	公民	現代社会			2	2	
	数学	数学活用			*2		5・7
		数学I	3				
		数学II		*2	*4		
	理科	科学と人間生活			2○		4・6
		物理基礎			2※	2※	
		化学基礎	2				
		生物基礎			2※	2※	
	保健体育	体育	3	2	2		9
		保健	1	1			
芸術	音楽I	○2				2	
	美術I	○2					
	書道I	○2					
外国語	コミュニケーション英語I	4				6	
	コミュニケーション英語II			2			
家庭	家庭基礎	2			2		
情報	社会と情報	2			2		
農業	農業と環境	2			2		
小計		27	13・15・17	6・8	46・48・50・52		
原則履修科目	学 総合 (学)産業社会と人間	2			2		
	小計	2	0	0	2		
学校必修科目合計		29	13・15・17	6・8	48・50・52・54		
総合学科選択科目合計		0～11	10～27	20～36	30～52		
教科・科目の計		29～40	27～40	28～42	84～100		
総合的な学習の時間		0	2	1	3	「マイ・プロジェクト」	
特別活動 ホームルーム活動		1	1	1	3		
総計		30～41	30～43	30～43	90～105		

系列	総合学科選択科目													
	総合選択教科								自由選択科目					
	基礎科目				基礎以外の科目									
	教科	科目	単位数	備考	教科	科目	単位数	備考	教科	科目	単位数	備考		
人文・理数	国語	古典B	4	2, 3年分割履修	国語	(学) 現代文演習B	2	3年	国語	(学) 現代文演習基礎	2	3年		
		(学) 現代文演習A	2	2年		数学Ⅲ	(学) 数学の演習ⅠA	7		3年	(学) 実践国語A	2	2年	
	数学	数学A	2	1年	数学	(学) 数学の演習ⅠA	4	3年	地歴	(学) 古典講読	2	3年		
		数学B	2	2年		(学) 数学の演習ⅡB	2	3年		日本史B	4	2年		
	外国語	(学) 英語構文	2	2年	外国語	コミュニケーション英語Ⅲ	2	3年		地理B	2	3年		
		(学) 語彙力養成講座	2	2年		(学) 英語構文演習	2	3年		(学) 世界史演習	2	3年		
						(学) 長文読解教室	2	3年		(学) 日本史演習	2	3年		
										(学) 教養日本史	2	2年		
	履修単位数計			14	履修単位数計			21		公民	政治・経済	2	3年	
	国際・情報	外国語	(学) 音読演習	2	2年	外国語	(学) 異文化理解コミュニケーション	2			3年	(学) 一般社会	2	3年
(学) グローバルイングリッシュ			2	2, 3年	(学) 生活英語		2	3年		(学) 教養数学	2	3年		
情報		(学) 表計算演習	2	2, 3年	商業	簿記	2	2, 3年		(学) 実用数学	2	3年		
情報		(学) ビジネス文書演習	2	2, 3年		簿記	2	3年	物理	4	3年			
		(学) 情報処理演習Ⅰ	2	2年	情報	(学) マルチメディア表現	2	3年	化学	4	2, 3年分割履修			
学 生 生涯 教 養		(学) 外国文化と歴史の探 究	2	3年		(学) 情報処理演習Ⅱ	2	3年	生物	4	3年			
						情報の科学	2	2年	地理	4	3年			
履修単位数計			12	履修単位数計			14	理科	(学) 物理入門	2	3年			
人間・環境	理科	(学) 環境科学	2	2年	芸術	(学) 環境デザイン	2		3年	(学) 化学入門	2	2, 3年		
	農業	野菜	2	2年		学 生 生涯 教 養	(学) 健康と看護		2	3年	(学) 実習理科	2	2, 3年	
		草花	2	2年	福祉	社会福祉基礎	2		2, 3年	(学) 教養の科学	2	2, 3年		
		野菜	2	3年	学 生 生涯 教 養	(学) 看護入門	2		2, 3年	(学) ライフスポーツA	2	2, 3年		
		草花	2	3年						(学) ライフスポーツB	2	2, 3年		
	家庭	子どもの発達と保育	2	2年						(学) スポーツの科学	2	3年		
	履修単位数計			14	履修単位数計				8	芸術	音楽Ⅰ	2	2, 3年	
	食・花・交流	農業	果樹	8	2, 3年分割履修	農業	グリーンライフ	2	3年		美術Ⅰ	2	2, 3年	
			草花	4	2, 3年分割履修		生物活用	2	3年		書道Ⅰ	2	2, 3年	
			(学) くらしと動物	4	2, 3年分割履修						音楽Ⅱ	2	2, 3年	
(学) 栽培と加工			4	2, 3年分割履修					美術Ⅱ		2	2, 3年		
家庭		生活デザイン	2	2年					書道Ⅱ		2	2, 3年		
		フードデザイン	2	3年					美術Ⅲ		2	3年		
履修単位数計			24	履修単位数計			4	外国語	(学) 幼教・保育のための音楽入門		2	3年		
食・花・交流		農業				農業					(学) ワールドイングリッシュ	2	3年	
												植物バイオテクノロジー	2	3年
												(学) こめ学	2	3年
											(学) キャリアアップ	2	2年	
										(学) 技術検定	2, 4	1~3年(技)		
										商業	ビジネス基礎	2	2, 3年	
										家庭	(学) クリエイティブライフ	2	3年	
									学 生 生涯 教 養	(学) スーパーグローバルスタディ(S.G.S.)	2	2年		
履修単位数計			24	履修単位数計			4	外国語	(学) 社会人教養	2	2, 3年			
									(学) 心理学入門	2	3年			
									(学) 技能検定	1~9	1~3年(技)			
履修単位数計			24	履修単位数計			4		履修単位数計		90~101			

VI. (4) 各種報道等

今年度は広く注目され、各方面において様々な報道がなされた。

1. 平成 31 年 4 月 1 日『文科省スーパーグローバルハイスクール事業採択校、大阪府立能勢高等学校の鳥取県における SDGs 対応の TUES エリアマネジメント』中橋文夫氏 公立鳥取環境大学教授執筆

<p>平成 31 年 4 月 1 日 文科省スーパーグローバルハイスクール事業採択校、大阪府立能勢高等学校の鳥取県における SDGs 対応の TUES エリアマネジメント</p> <p>文科省スーパーグローバルハイスクール(以下 SGH という)事業とは、高等学校におけるグローバルリーダーの育成を目的とした事業プロポーザルをいふ。大阪では進学校の府立北野高等学校とともに、専門高校の府立能勢高校が採択され話題を呼び、THUS(Tomori University of Environmental Studies)には 2015 年より SGH 対応の依頼が来た。能勢高校の内田教授と中橋は空手道界の兄弟弟子という縁が取り持った。</p> <p>その間に社会では SDGs が注目され始めた。「持続可能な開発目標」に対して、大学は産官学と何を出来るのかと問われ始める。講演会、地域貢献活動などが頻りに並ぶ。THUS も鳥取大学とともに COC に取り組み、継続プロジェクトなどを考案した。</p> <p>2018 年度の能勢高校の SGH は初回の英語訪問(写真1)、鳥取県の地方創生学習、並びにモンゴルの環境問題の研究(写真2)と、グローバルなプログラムの通知を受けた。研修生は計 37 名、引率教員は計 7 名と現地調査が行った。国の手厚い支援を受けての研究が活発になりつつあった。</p>  <p>写真1 英語村での活動</p>  <p>写真2 高学生の発表</p>	<p>ンなどを学生とともに作り、工芸家の移住を促した。</p> <p>驚くことは既に工芸家の移住が始まり、千歳港から東京藝大院移った花井さんが移り住まれ、家の裏庭 700 平方メートルの半分を組む鳥取市産の地産物を使い、ここに人を鳥取に集める。産物のようなまちづくりがある。前田さんのご講話も関心を引いた(写真3・4)。陶芸の地ではない河内郡で、大学で学んだ白磁を 20 年造り続け、働くことに大英美術館から声がかかり、今日人間国宝として活躍される人生は血汗・お金とは程遠く「好きなことをやっていい、何れも楽く」が打つ。</p>  <p>写真3 前田さんのご講話</p>  <p>写真4 作品が並ぶアトリエ</p> <p>二つは鳥取砂浜に伺い、砂丘観光協会山崎さんからお話を伺った。実は砂丘の観光客が減少状況で、砂の堆積量も減少しているが、砂丘製作を進行して認められ、中橋さんと制作依頼が来た。学生にデザインを求めると、砂のラプソトリーをスケッチにまとめた(写真5)。早速制作にとりかかった。砂丘の跡を使い、学生と観光協会の協働により完成した(写真6)。観光客の写真スポットになった。</p>  <p>写真5 エコシステムに環境デザイン</p>  <p>写真6 完成した砂丘</p> <p>三つは半井知事へのヒアリングである。県内でバリエーション豊かだった観光地もよく知っていた。予の質問は関係部に知らされた。鳥取は地方を上げて答えていた。とりわけ、観光振興の決定は、県民投票と改定するほどの重要な事業で、半井知事も「鳥取にきてほしい」と話された(写真7)。</p>  <p>写真7 半井知事と記念写真</p>  <p>写真8 紙橋ロード</p> <p>四つはリニューアルした本町ホールである。地産物を使い、紙橋ロードの生い立ちと発展を学んだ。「市役所職員が商店前に紙橋のブロンズ像を置いたり」というアイ</p>	<p>ディアが拠点だ。それが紙橋街道、紙橋神社、紙橋グズと波及し、地産は今日 200 万人ノの観光地として賑わう(写真8)。</p>  <p>写真9 能勢高生の報告</p> <p>きて、こうした地方創生プロジェクトで言いたいことは、すべて四輪の大地空気に寄り添って資源を振り出し、人のアイディアが磨きかけ成長化したもので、決して飲食購買に頼らず、いたずらに経済を動かさず、汗の華を大切にしたい人の努力の賜物である。これが鳥取のアイデンティティで、高校生に学んでもらいたいところだ。それが地産地消の SDGs で、地方大学における実務家の教員も果たす使命でもある。</p> <p>平成 31 年 2 月 9 日、能勢高校 SGH 研究会に招かれた(写真9)。生徒は鳥取の地方創生について、人の温もりに感謝し、モノづくりのプロセスデザインを学んでくれたようだ。</p>  <p>写真10 能勢高生の報告</p> <p>写真11・12・13・17・8・9 は能勢高校の提供、写真5・6 は中橋の提供</p>
--	--	--

2. 季刊『環境ビジネス』(株)日本ビジネス出版)掲載「バイオマスで地域活性化」

<p>GREEN ESSAY バイオマスで地域活性化</p> <p>バイオマスは「バイオ」が生物由来のエネルギーを指し、人口は 2750 万人、森林資源に恵まれ、自給自足はバイオ最大の資源を有する。木質チップを使った燃料供給は、木材加工業者がもたらした木の良さを活かす。地元の森林をいかに活用するが日本でも議論されている。バイオの取組は多大に参考になりつつある。日本の発展も期待している。</p>  <p>36 2018.4 環境ビジネス</p>	<p>バイオマスで地域活性化の記事本文</p> <p>バイオマスは「バイオ」が生物由来のエネルギーを指し、人口は 2750 万人、森林資源に恵まれ、自給自足はバイオ最大の資源を有する。木質チップを使った燃料供給は、木材加工業者がもたらした木の良さを活かす。地元の森林をいかに活用するが日本でも議論されている。バイオの取組は多大に参考になりつつある。日本の発展も期待している。</p> <p>バイオマスは「バイオ」が生物由来のエネルギーを指し、人口は 2750 万人、森林資源に恵まれ、自給自足はバイオ最大の資源を有する。木質チップを使った燃料供給は、木材加工業者がもたらした木の良さを活かす。地元の森林をいかに活用するが日本でも議論されている。バイオの取組は多大に参考になりつつある。日本の発展も期待している。</p> <p>バイオマスは「バイオ」が生物由来のエネルギーを指し、人口は 2750 万人、森林資源に恵まれ、自給自足はバイオ最大の資源を有する。木質チップを使った燃料供給は、木材加工業者がもたらした木の良さを活かす。地元の森林をいかに活用するが日本でも議論されている。バイオの取組は多大に参考になりつつある。日本の発展も期待している。</p>
--	---

<p>日本農業新聞 2019 年 4 月 28 日 掲載 (転載禁止)</p> <p>留学先で学ぶ距離感</p> <p>外国人との断断回避 ● 地域再生マネージャー 斎藤俊幸氏</p> <p>「留学先で学ぶ距離感」の記事本文</p> <p>外国人との断断回避 ● 地域再生マネージャー 斎藤俊幸氏</p>
--

3. 平成 31 年 4 月 28 日掲載『日本農業新聞』「留学先で学ぶ距離感」斎藤俊幸氏

4. 令和元年9月17日放送『関西テレビ』 番組～報道ランナー～
『何とかしたい』

“消滅可能性都市”の高校生たちが「山林」に見出した「希望と課題」



5. 令和2年1月11日放送『関西テレビ』 番組～ FNN Live News it! ～
 “消滅可能性都市”を再生可能エネルギーで活性化 大阪・能勢町の高校生




6. 令和2年2・3月第58号『千里コラボ大学校』コラボ新聞

コラボ新聞

2・3月第58号

千里コラボ大学校

●1/11、能勢高校の生徒による5年間の研究テーマ「**能勢版シュタットベルケを考える**」～高校生が取り組む再生可能エネルギーによる地域活性化～を発表頂いた。「シュタットベルケ」とはドイツにおいて電気、ガス等公共インフラを整備・運営する自治体所有の公益企業という意味で、能勢町の7割に達する森林を木材チップ資源とするバイオマス発電で少子高齢化の町を「公益企業化への夢」で活性化させたいという研究活動報告を、一国の問題だけでなく、複数の国が抱える問題の違いを知り「これが『良い結果』と答が一つでない」という言葉に、視野を広く他の仲間の研究を客観的に評価等々、彼らの経験の素晴らしさが十二分に伝わっていた。



千里文化センター市民実行委員会事業
—第114回—

千里コラボ大学校 講座

能勢版シュタットベルケを考える

～高校生が取り組む再生可能エネルギーによる地域活性化～

大阪府立能勢高等学校は2015年度、文部科学省より「スーパーグローバルハイスクール(SGH)」に指定され、グローバル(グローバル+ローカル)な視点から課題研究を行っています。課題研究の対象としてモンゴルとマレーシアの社会問題や環境問題に焦点を当て、これまで生徒たちはモンゴルを2回、マレーシアを3回訪問し、現地調査や地元の人々との交流を実施してきました。2018年度に本校は大阪府立豊中高等学校能勢分校に改編され、引き続きSGHの後継事業として課題研究を行っています。

今回は、環境先進国ドイツの「シュタットベルケ」についての課題研究を発表します。2019年9月に能勢町と本校が連携してドイツ・フリロン市で現地調査を行い、その成果をまとめたものを発表します。

令和2年(2020年) **1月11日(土)**
14:00～16:15
受講無料◆要申込

※12月14日(土)の「コラボ大学校」終了後より受講申し込みを受け付けます。



《出演》大阪府立豊中高等学校能勢分校の皆さん

- 定員70人 ※申込先着順
- 保育あり 幼児1歳～小学生3年生、親子ども1人につき200円
ご希望の方は1月8日まで、お申込みください

開催場所 千里文化センター「コラボ」
3階 第1講座室
住所/〒500-0002 豊中市新千里東町1-2-2
お申込・お問合せは千里文化センター事務局へ
TEL 06-6831-4133



主催:千里文化センター市民実行委員会・豊中市

のせ

7月号

元気いっぱい! のせ保育所 うんどう遊び

今月のpick up

- 2頁 自然災害に備えて
- 4頁 7月21日に実施される議員選挙の執行予定日です
- 4頁 プレミアム付高級車について
- 8頁 夏休みに町内5の所でフリースペースを開催します

のせ

5月～ 全4回

～能勢町・能勢分校連携～
公開講座 **高校生と学ぶ地方創生**



本年9月に能勢町と能勢分校の生徒はドイツを訪問し、エネルギー政策をはじめとするまちづくりの実態調査を行います。視察に先駆け住民参加型の公開講座を開催し、環境問題に対する国際的な動きやドイツ国内の現状などについて学習しました。


7. 能勢町広報誌「のせ」
令和元年7、10月号に掲載

のせ

9月 日独交流
2-7日 能勢町・能勢分校 **視察団 ドイツフリロン市を訪問**

能勢町・能勢分校ではフリロン市を訪問し、再生可能エネルギーを活かした地域活性化に関する視察を行いました。州政府ならびにフリロン市長から次の世代に向けた森づくりの必要性やエネルギーの有効利用などについて説明を受けました。また、フリロン市のギムナジウム(高校)では、相互の生徒たちが英語でプレゼンテーションを行い持続可能な開発について意見を交換しました。

この視察の成果を能勢町の森林などの「グリーンインフラ」の活用、そして次世代につなげるまちづくりに活かしてまいります。




のせ

10月号

能勢町・能勢分校ドイツ フリロン市を訪問
環境・エネルギー分野で交流・視察を行いました。

今月のpick up

- 2頁 財政状況をお知らせします
- 7頁 公共施設再編整備事業について
- 9頁 のせ木の森プロジェクト参加者募集
- 16頁 おおさかのつべんフェスティバル